

地域科学部 3年次前期必修科目「地域学実習」 学生が地域社会に出向き、 フィールドワークを通して 調査・研究方法を学ぶ。

地域が抱えるさまざまな問題を解決し、暮らしやすく文化的な地域社会を創出できる人材を育成するため、政策、産業、環境、福祉、文化など幅広い諸事象を深く探究する地域科学部は、国立大学では珍しい総合的な学部です。

3年生が必修科目として履修する「地域学実習」は、地域に向いて課題に取り組み実践的な授業。今年度は9つの授業を10人の教員が担当しています。学生はシラバスを参考に希望する授業を選ぶことができます。



①②平成25・平成24年度地域学実習調査風景 ③平成22年度住民フィードバックの様子(林琢也助教グループ)

林琢也助教グループ『世界遺産・白川郷にみる観光化の功罪』 多面的、多角的に現象を解釈し、 考える力を身に付けてほしい。

平成25年度の実習『世界遺産・白川郷にみる観光化の功罪』は、「観光」の華やかなイメージだけに留まらない負の部分も含めて、「観光」という現象を考えることが目的です。調査の事前準備として、受講生8人に白川郷の観光に関する既存の論文

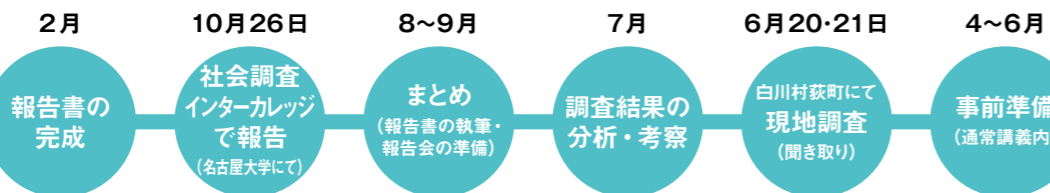
地域科学部
地域政策学科
林 琢也 助教



や報告書などの資料を分担して要約してもらい、課題や有効な解決策など、これまでにわかっていないことを把握してもらいました。今回調査に行った白川村荻町は生活の空間と観光の空間がオーバーラップしています。観光化が進むことで地域が豊かになったり、知名度が向上するなどのメリットがある一方で、観光客が押し寄せることで観光公害が生じたり、住民の生活の利便性が低下して生きづらくなるといったデメリットもあります。しかし、大半の住民は観光業に従事していますから、煩わしさも含めて仕方ないと折り合いをつけているところもあるかもしれません。今回はそういった部分を重視して調査しました。

学生たちは皆、観光現象や観光産業に関心を持っていて、そこから非常に熱心に調査をしてくれました。事前に飲食店や土産物店、民宿など観光業に従事している方々に聞

きたい質問をまとめてもらいましたが、インタビューは生ものです。ですから、話をする中でより重視して聞いた方がいいと思えば、用意した質問事項にこだわらなくてもいいということも伝えていました。それに応えるように、インタビューに慣れていくに従って、次第に相手の話を聞きながらその場で質問の内容を工夫して聞けるようになっていきました。



平成25年度の
実習の流れ

学生インタビュー

実習経験が行動を起こすきっかけに



地域科学部 地域政策学科
地域政策講座3年
伊藤 未有 さん

私は観光やメディアに興味があり、地域科学部に進みました。

座学ではわからない実態を肌で感じられる「地域学実習」は意義があると思います。観光地が生活の場でもある住民の方の思いにも興味がありました。調査前に論文を読み、ネガティブな意見が多いかなと思いましたが実際にはポジティブで、みんなで観光地を作っていくという気概を感じました。思いが募り、ゼミ旅行で再び白川郷を訪れました。実習後は積極的に行動を起こせるようになりましたね。

地域振興への興味を深めた実習でした



地域科学部 地域政策学科
地域政策講座3年
浅井 政人 さん

観光業に従事する町の方々は家屋保全のために規制を受けたり、プライバシーを侵害されかねない中でも、協力して問題解消に取り組んでおられました。白川村の良さを広めたいという思いが伝わってきて、調査中は何度もジーンとしましたね。私は地域振興に関わる仕事に就きたいのですが、きっかけは地域科学部の先生方が精力的に活動されていて、勢いを感じたからです。林先生の授業や実習を受けて、ますます地域科学部に来た意味を感じています。

座学ではわからない実態を肌で感じられる「地域学実習」は意義があると思います。観光地が生活の場でもある住民の方の思いにも興味がありました。調査前に論文を読み、ネガティブな意見が多いかなと思いましたが実際にはポジティブで、みんなで観光地を作っていくという気概を感じました。思いが募り、ゼミ旅行で再び白川郷を訪れました。実習後は積極的に行動を起こせるようになりましたね。